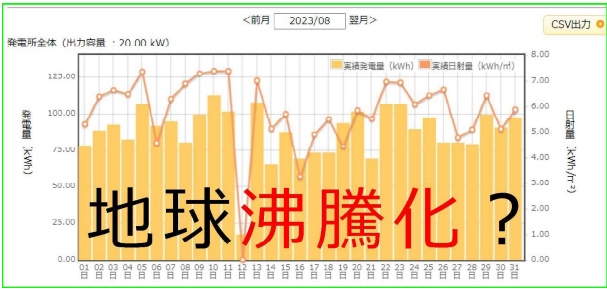




機関紙「フィトンチッド」第10号
2024年2月発行

8月27日 第1回理事会を開催して事業計画・活動を開始！



☆ソーラーパネルの下では
野菜の葉枯れもなく
水やりもなく
虫食いなしで
文句なし！

☆ソーラーシェアリングの営農応援団が野菜の栽培に頑張ってます！



☆今後、農業用機械の電化を計画中！
(電動耕運機・充電式草刈機)

10月1日 自然に親しむ活動・栗拾い・芋煮会を開催しました。
☆年々増える熊の目撃情報などで盛り上がる思い出の昭和展示室です。



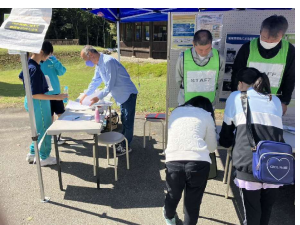
☆「フィトンチッド」に住む
穴熊の親子です。

10月2日 金山中学校に太陽光発電パネル・蓄電池を寄贈！
☆金山中学校卒業の水戸部理事と金山中1年生との総合授業の様子です。



10月8日 金山町産業まつりに出店参加

☆中高生対象のエネルギーに関するクイズです。



☆横浜市在住の丹さんにお手伝い頂きました。
(事務局長の弟さん)ありがとうございました。

11月11日 新庄市の土内川発電所計画地の見学会
☆最上自然エネルギー(株)の小島さんに案内していただきました。



☆送水管にエネルギーを感じます。

思い出の昭和展示室



☆仙台市の若林クリニック様から
音響機器とモニターの寄贈がありました。
(パソコンにつなげばカラオケ可能です)

12月24日 ソーラーシェアリングの営農応援団と収穫祭
☆理事会と一緒！



☆昭和の暖房と
綿入れどんぶく

これからの
伝説！

9月23日 金山町ゼロカーボンを考える会第1回例会を開催しました。
☆かねやま電雪が「後援」の考える会です裏面をご覧ください。

特定非営利活動法人
かねやま電雪

999-5401 山形県最上郡金山町大字有屋312番地
事務局TEL 080-2303-3763 (担当 小沼・丹)
HP: <http://kaneyamadensetu.kirakirahatuden.com/>



「金山町のゼロカーボンを考える会」について

金山町は、2022年11月3日に「2050年ゼロカーボン宣言」をしました。

猛暑や集中豪雨、雪不足など温暖化・気候危機は、よそ事ではなく私たちの生活にも大きな影響を及ぼしています。その主な原因となっているのが、この100年あまり人類が大量の石炭・石油・ガスなどの化石燃料を燃やして排出してきた二酸化炭素（CO₂）です。このCO₂の炭素“カーボン”の排出を、2050年までに実質“ゼロ”にするということです。

もしこれを行わなければ、地球の環境は後戻りできないような破局に向かうといわれています。しかも、2030年までに、CO₂排出を現在の半分以上減らすようなスピードが求められています。

振り返ってみると、車はガソリン、暖房は灯油と私たちの生活は化石燃料に依存しています。電気は電力会社から購入していますが、右のようにその発電の動力の75%が石炭や石油、ガスなどの化石燃料です。しかもその化石燃料のほとんどを海外からの輸入に頼っています。さらに、ペットボトルやラップなど多くの容器はプラスチックで、その原料は石油です。このように、私たちの生活は、石炭・石油・ガスなどにドップリと浸かっています。

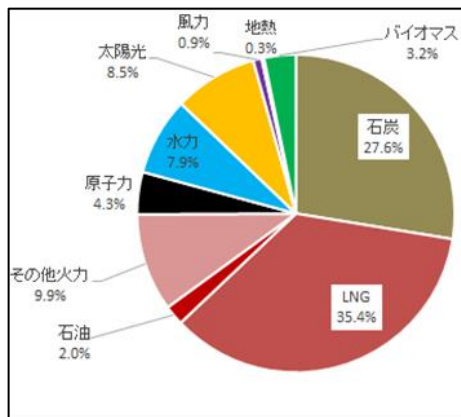
「ゼロカーボン」は表明したから達成できるものではなく、それに向けた政策や行動によって具体化していくものです。そのためには、社会の仕組みを変えながら、私たち一人一人も、化石燃料依存の生活様式から転換していく必要があります。

NPO かねやま電雪は、金山町の自然を生かす活動を一つの柱にしてきました。この間、昭和を懐かしむ行事や自然に親しむ活動と並行して、雪室やソーラーシェアリング発電の実証実験、地域の小水力発電の調査など行ってきました。今回、町の「ゼロカーボン宣言」を受けて、NPO がどんな活動ができるか、検討してきました。

その結果、会員である若手の栗田伸一さんを中心に、古手の柴田清正理事、水戸部理事の3人が呼びかけ人になって、「金山町のゼロカーボンを考える会」を立ち上げ、関心のある町民に広く呼びかけ、ゼロカーボンについて検討する場を設けることにしました。以下、その内容を紹介します。

○ 2023年9月23日（土）「金山町のゼロカーボンを考える会」第1回例会を開催しました。当NPOからは6名、町長含めて役場職員や議員、町民など20名を超える参加で盛会でした。新庄市から2名、真室川町から1名と他地区からの参加もありました。

水戸部理事からゼロカーボンの話題提供のあとグループに分かれ、率直な意見交換が行われました。初回はどうしても町の重鎮が多く、次代を担う若者の参加が少ないので次回からは、若い方も参加できる企画にしてはなどの前向きな提案もありました。町長からは「役場職員から月1回、ノーマイカーディを始めてみたい」など具体的な提案も出されました。



○ 2023年11月26日（日）「金山町のゼロカーボンを考える会」第2回例会を開催しました。町外2名含め24名の参加でした。今回は最上町で木材の地産地消エネルギー会社を立ち上げた赤川健一さんを講師に、その実践を報告していただき、その後グループに分かれて自由に意見交換をしました。米国や中国が大量のCO₂を出しているのに、金山のような自然の中で慎ましく生活している私たちがなぜゼロカーボンに取り組む必要があるのか？がنگがん石油ストーブ炊きながらアイスクリームを食べるような生活スタイルの見直しが求められるのではないか、など活発な意見が出されました。



☆「ゼロカーボンかねやま 2050 町民会議」がスタート☆

金山町も、広く町民にゼロカーボンを呼びかけながら、10月に委員を公募し「ゼロカーボンかねやま 2050 町民会議」を9名の委員構成で、12月11日第一回の委員会を開催しました。当NPOからは栗田伸一会員と大場理事、水戸部理事がそのメンバーに加わりました。

今後、「金山町のゼロカーボンを考える会」は、この町民会議と協力し、ゼロカーボンの考え方を広めながら、活動していくことになります。

省エネを徹底し、地域の再生可能エネルギーを活用しながら、カーボンニュートラルな社会をどう実現するか、みんなで知恵と力を出し合いたいと思います。（文責 水戸部）

注）人間も呼吸をして、1日約1kgのCO₂を出しています。このCO₂は毎日のご飯が、体の中で燃えてできたものです。このご飯は、稲が光合成で太陽光と水と大気中のCO₂で作ってくれたものです。このように“炭素”が短期間で循環し差し引きゼロになることを“カーボンニュートラル”と呼んでいます。（安心して呼吸しましょう）

一方、私たちのまわりの森林は、この光合成で時間をかけて、“炭素”を木質として蓄えてくれています。これを燃料として使う場合は間伐材や端材など、森林を維持・整備しながら使うことが基本です。森林を破壊するような大量の木質バイオマス利用は、“カーボンニュートラル”ではありません。

